

令和6年1月教育委員会定例会会議録

日時 令和6年 1月24日（水）

10:00～11:40

場所 波佐見町役場 第3会議室

出席者：森田教育長、山下委員、馬場委員
富木委員、

事務局：朝長次長、渡邊指導主事、太田係長

1. 出席者の確認 松尾委員欠席

2. 会議録署名委員氏名

馬場委員、山下委員で了承されました。

3. 前回会議録確認

（12月定例会の会議録を確認。）

4. 報告事項

1) 教育委員会

12・1月事業報告、1・2月予定について

（別紙により朝長次長報告）

2) 給食センター

12・1月事業報告、1・2月予定について

（別紙によ太田係長報告）

※報告事項（追加・その他）

森田教育長

3ページに戻っていただいて、少しつけ加え補足をします。1月7日新聞等にも載りましたが、消防出初式がありまして、新庁舎への放水写真が載っていました。波佐見、川棚辺りの伝統的な文化といいますか、他の市町ではなかなか見られない大変ユニークというか、面白い新築放水を、驚きながら写真を撮られていました。

11日の県地域づくり人材育成研修ですが、次長と小林さんでとてもいい内容の発表をしていただいて、参観の方々も大変興味深く聞かれ、波佐見はこういうことをしているから元気なんだと、改めて県内の公民館関係、社会教育関係の方々に、アピール出来たのでとても素晴らしかったと思っています。

13日土曜日ですが、講堂において、九大生が波佐見町を題材にした自主映画を制作され、その上映会がありました。20分ほどの波佐見町をPRする映画を制作して、それをずっと1日繰り返し上映されました。先ほどの

シーボルト大学もそうですが、県内、県外の学生たちが波佐見町に対してかなり関心や興味を持って、波佐見町を題材にしてアピールしていきたいという、とてもありがたい取り組みをさせていただいていると思っています。映画は「くらわんか」という題名でしたが、やきもの以外で波佐見町の魅力は、こんなことなんだよというところを、自分なりに考えたイメージを四つのストーリーだったと思いますが、1人の少女の成長を通し、波佐見町の人の良さとか、自然とか、そういったものを絡めた内容で、とてもありがたいと思いながら、温かい作品だったと思っています。

20日土曜日に、東小学校のPTA母親部会の主催で、東小学校PTAと長年交流している佐世保高専の先生たちに来ていただいて、理科好きになるような科学的な実験が行われました。今回コロナ明けで久しぶりに行われましたが、とても楽しかったです。体育館に雲を作ってみたり、マイナス200度になるとどういうふうになるかとか、とても刺激的な実験を補助の方々と高専の先生に行っていただきました。30名ちょとの参加があって、楽しいひと時でした。これだったら本当に子供たちの理科離れ、理科嫌いが少なくなるなと思いながら、参加をさせていただきました。

町の図書館に林会計年度任用職員がいますが、彼女に図書司書補助の資格をさらに深めてもらいたいということで、3月末まで長期の研修に入らせていただきます。その代替ということで、面接をして本日から業務に当たっていただいております。

次4ページの生涯学習の集い、第一部に小中学生の意見発表がありますが、今回残念ながら波佐見高校の生徒さんが参加されていません。たまたま学校の都合だと思いますが、来年度は是非参加していただきたいと思っています。波佐見高校の生徒さんの発表はとても素晴らしく、ここ数年本当に良い発表をいただいていたのですが、ちょっと残念ですが、来年度以降また改めて参加をお願いしたいと思っています。

2月の予定で4日日曜日、広報にも載っていたと思いますが、旧庁舎で楽しい書きと書いて楽書き大会があります。

予定ですが9日に、中尾と鬼木の文化的景観の検討委員会が予定されています。12日がわくわくどきどきさんの人形劇、15日は議会全員協議会、16日に地区別の教育長会があります。例年のように人事の資料をここで提示をされますので、この後に教育委員会を開かせていただいて、その報告と承認をいただきたいと思いますので、2月の定例委員会を充てるか臨時で行うか後で日程調整をさせていただきたいと思います。あと24日に前一瀬町長さんの叙勲祝賀会が予定されていますが、案内等々どこまでされるかまだ分かりません。私からの追加は以上です。他ご意見、お尋ね等がありましたらお願いします。

渡邊指導主事

1月25日ですが、南小学校が中間発表を予定されております。委員の皆さんにはもうご案内が届いたかと思いますが、今回学校とも連絡を取りまして、委員の皆様には、来年度の10月に行われる本番の発表に、是非参加をしていただけたらと思っています。ですから今回の中間発表について

は、参加はなしということで学校と確認をさせていただきました。良かったでしょうか。

【はい】

来年の10月に本発表、郡内、県下にご案内をして、県内の学校の先生方がお集まりいただく会になりますので、そのときに様子をご覧いただけたらと思っております。私の方からは以上です。

馬場委員

書初め大会をさせていただきましたが、予定していた週に私が体調を壊し、書初めをちょっと延期させてもらいました。11日予定の東小が19日に、12日予定の南小が17日にさせていただきました。18日の中央小はもともその日でしたので、それぞれの学校でさせていただきました。今回下敷きを70枚買っていただきまして、本当に良かったです。それを3校で持ち回り行うことができました。中央小が72名いるということでしたが、欠席がいたので足りはしました。皆しっかり書けて、今学校の方で掲示してあると思います。

森田教育長

今回参加できなかったですね。今年は特に引っ越し作業でバタバタとしていました。参加できずに申し訳ありませんでした。来年は必ず参加したいと思います。

馬場委員

それからもう一つ、中学校の部活動の地域移行で、1月18日にされた説明会のことで、指導者を呼んでされたということですが、もう少し詳しく教えてください。

渡邊指導主事

では、次の持ち寄り議題の中にも関連をしてきますが、一緒に併せてご説明をしたいと思います。この部活動の地域移行につきましては、令和5年度今年度から、全国的に中学校の部活動を、地域に移行していくという動きが行われております。長崎県は令和6年度からの動きになっていきますが、いま中学校の部活動は平日休日行われていますが、まずは休日についての活動を地域に移行をしていきたいと思います。一番の大きな理由としては、少子化による子供がいない中で、チーム編成が出来ない学校がどんどん増えてきています。そうすると大会にも参加が出来ないということになってきているので、地域に移行しクラブ化することによって、そういう子供たちも参加できるようにしていきたいと思います。働き方改革によって中学校の教員指導を切り離していきたいと思います。18日に中学校の外部指導者の方を集め連絡説明会を行わせていただきました。現在15名の外部指導者の方がいらっしゃいますが、都合により8名の方に参加をしていただきました。今後地域移行になるということと、それに伴ういろいろなことについて説明をさせていただきました。その1つが、中学校の先生方は、原則的にもう土日の部活には参加をしませんということです。ですから、地域の外部指導者の方が、休日について今までのように部活を担当していただくことになる

というお話をさせていただきました。ただし、中学校の先生方も、地域人として休日の部活に参加をしますという方については、そのまま参加をしていただくことは可能です。そうした場合、今までは学校部活として、休日参加をしていただいていたのですが、今度は地域人として参加をしてもらうことになるので、その学校の先生方にも休日の活動謝金という形でお金を支払うことになります。そうすると公務員は兼業ができませんので、今回教職員の管理規則を改正して、兼職兼業の申請を行ってもらえば、兼職兼業の許可を行うことといたしました。委員の皆様には、こちらの規則の改正を承認していただいた上で、これが動き出す形になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。まず流れとしては、自分が地域人として休日の部活に参加をしたいという申請を学校長に提出をし、学校長は教育委員会にそれを上げてもらいます。それを教育委員会が承認して、初めて休日にも地域人として参加できるという流れになっていきます。

地域の部活を地域の人たちで見ていくということで、この間もお話をさせていただきましたが、今16部活に15名の外部指導者がいらっしゃいます。ただし、地域の方がいらっしゃらない部活もあります。例えばバドミントンです。部員は40～50名いますが、学校職員が2名で見えています。地域の方がいらっしゃらなければ、どうするのかという議論になりましたが、その辺についても、地域の方の指導者を見つけていかないと、バドミントン自体が動きにくくなってくるので、是非とも地域の指導者の掘り起こしをしていかなければいけないという話になりました。波佐見町はまだ15名の方が地域外部指導者として動いていただいていますので、とてもありがたいと思っています。これを更に広げていかないと、その地域のクラブチームとして滞ってしまうというところも心配をされますので、働きかけをしていきたいと思っています。

今の検討委員会は、スポーツ推進委員長、体育協会長、PTA代表、スポーツクラブの代表など、メンバー10名でこれまで2回委員会を開催しています。その中では、やはり指導者がいないということが一つ、あとその指導者に対する謝金の財源はどこから持ってくるのかという、その大きな二つの課題が問題となっています。今後この二つの課題について検討を進めていきながら、休日の地域移行は進めていきます。将来的には平日も地域に移行していくことになり、部活動は学校部活から完全に切り離して地域部活、地域クラブという形に移行することになっていきます。その前段階として、今回は休日について進めていっているところです。

波佐見町は来年度は1学期に中体連がありますので、2学期の休日から地域部活として動き出していきたいと思っています。この兼職兼業の申請を行った職員は、2学期からは地域人としての活動していただくということになります。

あと波佐見町は部活に相当の補助をしていただいていますので、そちらの補助金を利用して活動費であったり、外部指導者の謝金であったりと、ありがたく使わせていただきたいと思います。私の方から大まかに説明をさせていただきました。

馬場委員

社会教育の方ではいろいろ聞く機会がありますが、今の波佐見町の状況をちょっと聞いておきたかったので、大体今の説明で分かりました。

確かに良いと思います。そうしないと先生方の働き方改革がなかなか進まないという一つに、この部活動の問題があると思っています。結構大きな問題でもあるので慎重に進めていってもらえればと思います。また、少しでも謝金を出してもらえれば、出来る方もいらっしゃると思います。

私たちがPTAの役員時代は、バドミントンはまだ部活ではありませんでしたが、指導者はいらっしゃいました。その時はバドミントンを部活にしてほしいと運動して、部活にはなりませんでした。その後部活にはなりました。逆にそれが今1番多い部活になっている状態ですから、早く指導者が見つければ良いなと思っています。

富木委員

良いですか、謝金をどう賄うかということについては、あてというのか、どう考えられているのでしょうか。

渡邊指導主事

現在、各部活では保護者が毎月1,000円負担をしていただいています。全国的に先進地区である長与町さんは、休日の部活についての活動費を保護者負担3,000円納めていただいているそうです。それとまた別に毎月の活動費1,000円を納めていただいて、それを財源に賄われているということのようです。但し、長与町さんは町の補助金はないということですので、たぶんギリギリなのか、ちょっと厳しい状態だと思っています。

今のところ波佐見町は、毎月1,000円の線は崩さないで、町の補助金をうまく活用出来たらと考えているところです。しかし今後、受益者負担ということで、保護者の負担も検討をしていかなければいけない部分だと思っています。

馬場委員

部活動振興会の方には、昨年までは250万、今年は地域移行が始まるということで、150万上乘せして、400万の予算が確保されています。我々の時代は200万でしたので、だんだん増えてきています。この補助金でどうか、少しは埋め合わせできるのかなと感じはしています。だから波佐見町は部活動振興会に400万というお金を出してもらっていますが、たぶん県内他ではありません。これだけのお金を出しているところはないと思いますので、この補助金で幾らか埋め合わせはできるとはと思っています。

森田教育長

部活動というのは日本独特のスポーツ教育活動で、100数十年続いたものですが、これがもう完全に無くなると言いますか、形を変えて、部活動ではなく地域スポーツ活動という形になっていくということで、欧米化になっていくのだろーと思っています。

どうしても部活動に対するブラックのイメージ、そして実際に先生方の働き方改革の部分でかなり足かせになってる部分、もう一つは部活動の顧問に全員がなった時、経験したこともない、あるいは嫌々ではないけど、

負担を感じる先生方が多いということで、実際本町でもアンケートを実施しました。今現役の保護者、現役の子供たち、現役の外部指導者、現役の中学校教員に、続けますかということなども含めてアンケートをとらせていただきました。

国内、県内の中学校教職員のアンケート結果は、やりたい、やってくれと言われたらやってもいい、できるだけやりたくない、全くやりたくないという4段階で、やってもいいが全国では3割です。県でもそうです。これから地域スポーツになっても、指導者として関わっても良いですよという教員は3割ということ、まずご理解ください。波佐見町はありがたいことに、もうちょっと高いです。

一つの目途としては、現役の中学校の先生方は3割程度の方が、地域移行になっても協力をしてくれるということになると思いますが、逆に言うと7割は地域の方から助けてもらわないといけないということになります。7割という数字も難しいところがあるので更なる地域人材、外部指導者の確保ということと、予算的な確保も問題となってきます。ありがたいことに休日に関しては本町では400万の部分がありますので、何とかかなるかなと思いますが、保護者の負担をこれ以上余り増やさないために、他の財源として、一つ考えられるのはスポンサー的な地域の企業からの寄附もあるかなという意見もあっています。そのために大会の会場等で、スポンサー企業の製品を売るコーナーを設けるとか、ユニフォームに企業名をいれるとか、そういう企業の広告につながるようなことも行いながら、企業からの寄附金を集められないかというアイデアもあるようです。あるいはスポーツ協会長さんの話では、ボートピアの売上げも、そういう教育基金として活用して良いとなっているようです。

また、指導者確保については休日までは何とかかなると思いますが、これが平日以降になった時にどうなるか厳しいと思っています。役場職員を含めてですが外部指導者の方々が、勤務が終わってから練習に行くと、体育館の種目は大丈夫ですが、屋外種目は18時に来られても、時間がなく出来ないと思います。ナイターをつけてやるにしても、今度は子供たちの生活リズムが全く狂ってしまうので、宜しくないだろうと思っています。そうになると、例えば16時から部活動指導に行くことの理解を、会社なり、上司なりの理解をいただかなければならなくなります。また、当然そこには勤務時間中なので、賃金・給料の問題が発生してきます。勤務時間を削ってまで行かれるわけですから、謝金程度ではもういかなくなると思います。それなりの額を補償しないといけなくなると思っています。そうすると、指導者の方が本当に集まってくるのかという、とても大きな課題がここに見えてきます。その部分のお金をどこが負担するのか、行政側から出すか、保護者の負担をもっと増やすのか、企業的なスポンサーを見つけて出していただくのかという予算的な裏付け問題があります。これと指導者確保も含めて、本町とすれば8～9年度ぐらいから研究検討を始めて、10年度ぐらいからスタートできるかなと思っています。国自体は目途は7年度でという数字は出していますが、本町の実態自体が全然違うので、そんなこ

とは出来ません。本町の実態に併せ、8年度ぐらいにまず休日ができれば良いかなあと思っているところです。

山下委員

保護者の部活動の負担については、どこの部でも統一ですか。

渡邊指導主事

部活動振興会という会がありますが、その会に年間最初に3,500円払っています。その後、各部活単位で月1,000円ずつの活動費を納められています。それとまた別に遠征とか行った場合には、遠征費という形で集められています。

森田教育長

そこが上限かなと思っています。長与町は土日の分だけで3,000円保護者が負担されています。一番の課題であると思っています経済的な格差が、子供たちの部活動をやりたいという思いを妨げないようにしないと、教育的に大変な問題になってくると思っています。また、都会にはそういうクラブ組織がいっぱいあるので、子供たちの選択肢もいくつもあります。田舎にはそういうクラブ組織がないので、結局は子供もいなくなるし、子供たちのやりたいという思いも実現できない場合もあると思っています。更に、お金が掛かるから出来ませんとなると、本当に2極化、3極化になっていくという恐れを非常に感じています。

渡邊先生と話しますが、一つはアスリート系、実際今でもサッカーはクラブ組織のVファーレンの下部組織に行っている子、高校に行ってみ極めようと思っているアスリートの子、これは今でもいっぱいいます。スイミングに行っている、空手に行っている、ラグビーに行っている、野球に行っているといろいろありますが、それにはどうしてもそれなりのお金が掛かりますが、それでも行きたいと言って行っているアスリートを目指す子供たちがいます。それと、部活動に入らない子供たちが多分ぐっと増えるだろうと思っています。それと、もう一つ救いの部分ということで、自分たちで体力を高めていきたいです。友達と一緒に運動して遊びたいです。思い出を作っていきたいですという自主的なサークル活動を楽しもうという子供たちの団体という3パターンになっていくだろうと思っています。これについてはこの前テレビに他県でしたがもう出ていました。先生たちは安全管理だけで、一切のお世話はせずに、中学生が自分たちで仲間を集めて、そういうサークル的な活動を楽しんでいます。こういう3局に今から分かれていくのかということを考えていますが、部活動に入っていない子供たちをどうサポートするかというところが、今後の課題となってくるのかなと思っています。実際東彼杵中学校はほとんどの部活動がもう無くなっています。もう野球もギリギリで、多分今後無くなるかもしれません。川棚中学校もサッカーはありません。野球もギリギリです。本中学校はまだ、県につながっている大会があるので、まだ大きな課題になっていませんが、川棚中学校は半分、東彼杵中学校は野球とソフトテニスとか、あとは小人数ができるような団体スポーツと個人でできる陸上とかそういうもののしか残っていません。そういう現状がある中で、東彼杵町の子供た

ちのやりたいを、誰がどういうふうにかバーしていくのかという時に、もう町レベルじゃなく、東彼杵郡というところで一つのサークルを作って、そこに入って活動を行う合同という考え方でやっていかなければならないのではないかと考えています。もう新上五島では、そういう動きをしています。新上五島町で一つの吹奏楽部、一つの野球部を作って、そこに集まって練習を行っています。まだ課題はたくさんあるとは思いますが、そういうやり方が恐らく東彼杵郡でも入ってくるだろうと思い、校長会の中体連の団体のところにどうするんですかと話をしています。波佐見町はまだ大丈夫ですが、東彼杵中、川棚中には出られない子供がたくさんいるのではないですかと話ししています。実際、吹奏楽も本町も15名切りました。川棚中も東彼杵中も15名いません。集めてやっと今35～6名です。そうなると、一つの大きな音を出すために、10人程度ではなく30～40人でやって、やっと良い音楽ができるのであれば、もう合同でやらないとレベルアップは出来ませんという現場からの声も出てきています。もう来年ぐらいからそれをもう真剣に考えていかないと、後手になると、東彼杵中の子供たちは3年間部活動に出られないということが現実に出てきます。だから、組織だった部分はあまりゆっくり出来ないということで、ちょっと危機感を感じて、校長会とも今話はしているところです。大きな転換期を迎えています。

4. 議題

1) 波佐見町立小、中学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部改正について

2) 小中学校卒業式について

3) 小中学校入学式について

4) 令和6年度絆の日について

森田教育長

先ほどの議題にもなりましたが、中学校の兼業兼職を認めるという規則について、第6条を追加するという形でご承認いただければ、4月から中学校教職員の兼業兼職について事務処理をさせていただきたいと思えます。何かお気づきの点はありますか。長与町と県を参考にしながら、文言化したものです。

【特に意見なし】

ありがとうございます。

それでは、レジュメに戻りまして、議題の2卒業式、3入学式について、これは分担ということになりますか。中学校についてはもう基本的には全員参加ということになりますので、よろしくお願いいたします。

【小学校の卒業式、入学式を調整】

卒業式、東が冨木委員、中央が松尾委員、南が山下委員。入学式が東が馬場委員、中央が冨木、松尾委員、南が山下委員でよろしいでしょうか。あと事務局は後日打合せします。

絆の日については、これは確認だけでよろしいですか。

朝長教育次長 今回は4月30日と5月1,2日が平日となりますので、この日を絆の日ということで指定をして、学校を休業とさせていただきたいと思います。

馬場委員 そうなると8月の2学期はいつから始まりますか。

森田教育長 今度は31日が土曜になりますので、28日が始業式となります。
持ち寄りについては、後からということで、その他で、生涯学習の集いと、町民音楽祭についてお願いします。

5. その他

1) 生涯学習の集いについて

2) 町民音楽祭について

朝長教育次長 生涯学習の集いは、自治会で配布していましたがチラシになります。1月28日（日）13時からお願いします。一部は青少年の意見発表、二部を自治会の実践活動発表で、今回は宿郷と乙長野郷となります。三部が元NHK大分アナウンサーの松本先生にお話をいただくことにしています。一部の青少年発表は、各校から2名ずつの発表者に発表していただきます。今回は波佐見高校から出席がございませんでしたので、8名の方に発表していただくということになります。ご都合つけられご参加のほどよろしく願いいたします。

森田教育長 家庭教育講演会は、PTAがメインで行っているはずですが、ここ数年PTAからの参加が少ないということで、町Pの役員さんには、もう少し積極的に呼びかけてくださいというお話はしています。去年の矢野大和先生もとても良いお話をされましたが、多分PTAからの参加者が20名ぐらいしかいなかったのはとても残念でした。この前は役員の方々に、PTA活動の部分で家庭教育講演会をやっているの、積極的に呼びかけをしていただかないと、もったいないですよと話をさせていただきました。

生涯学習の集い、学びフェスタで何かご質問等ありませんか。

馬場委員 今回は社会教育では劇はしませんが、でも出ます。一応前に並んで発表はしたいと思います。

森田教育長	はい、町民音楽祭について何かありますか。
朝長教育次長	2月18日ということで予定をしています。今月31日に最終的な打合せがあるようになっていきます。内容的には資料をつけていませんが、時間日程等を押さえとっていただきたいと思います。以上でございます。
森田教育長	小・中学校の参加につきましては、今年度の4月段階で年間行事を作成する時には、まだコロナもあっていたので、年間予定の中に入れていなかったということで、十分な練習ができていない学校もあり、今年度は学校の自主判断としています。その中で、中央小学校と中学校が参加をするようになっていきます。東と南については今年度参加を辞退したいと報告をもらっています。来年からは4校揃ってということで、確認をさせていただきますので、ご理解いただきたいと思います。 その他について、子供県展の受賞者について、お願いします。
朝長教育次長	第69回長崎県小中学校児童生徒美術作品展で、南小学校の4年生の丸田君が県知事賞を受賞されています。昨日ちょうどパンフレットが回っていったので、カラーコピーを配布しています。
森田教育長	県知事賞ということです。もう一つ、県の交通安全の最高賞も南小の2年生の児童が受賞しています。中央小の児童も他の何かで入賞していました。今そういう芸術文化的なものでも、よく頑張っているなという印象です。 先週県の授与式があっていたと思いますが、保護者の方が行かれていたと思います。広報の方にも、こういう子供たちの紹介をしていきたいなと思います。 はい、それでは持ち寄り議題ということで、時間をとりたいと思います。

4. 議題

5) 持ち寄り議題について

山下委員	先日の波佐見一周駅伝ですが、要件が緩和されて、前回よりも地区の参加が多かったなと思っています。波佐見テレビもライブ配信されていて、移動応援の方はどうだったのかなと思います。ライブ配信を見て、地区の応援に出ることができたので大変良かったのではないかと思います。帰ってから見ようという方が何人かいましたので、今までのような移動応援が少なくなったのではないかと思います。
森田教育長	去年はコロナもあったので、参加者も少なかったと思いますが、今年は去年よりは多かったように感じました。車で回っていったので、車が止

めやすいところには人ばかりができていました。参加者が増えたのかなと思っていました。もちろん以前に比べたらだいぶ減ったのは間違いないと思いますが、参加者は増えたなあと感じていました。

そうですね、確かにもうライブ配信があるから、わざわざ出なくてもいいということも出てくる可能性もありますね。

山下委員 でもライブ配信があることによって、その地区を通る時間が分かるので、その時間に出ていけばいいので、皆さんそのメリットはあられたと思います。

富木委員 そうですね。私も地元で応援はしましたね。

山下委員 はい。地元応援はちょっと増えたかなあと考えていますが、ライブ配信があるということは知ませんでした。

森田教育長 ライブで配信すると周知はあっていましたか。

山下委員 私も知らなかったですが、会場で聞いて一度家に帰り、ライブ配信を見ながら、もうそろそろだなと思って、また地元の応援に行きました。

朝長教育次長 波佐見テレビの中で、そういう放送されていたと思いますが、広報等でライブ配信があるとは特別呼びかけるとかはしていません。

森田教育長 移動している応援車が、大会の支障とか安全面で云々ということはありませんでした。どうしても1〜2台は支障がある車はいましたが、今回はとにかく事故を起こさないことが私たちの最大の願いでもありました。事故が起きたらこの大会は多分実施が出来ないという覚悟があったので、事故については警察や交通指導員さんやスタッフが十分配慮していただいて、事故が無かったことはホッとしています。また比較的スムーズに行くことができたかなと考えています。そういう点で移動車についての、ちょっとした注意が今後にも必要になってくるとは思います。

ライブ配信については、上手に使いこなして、自分の地区に近づいた時は、出ていただいてとかしてもらえれば、さらに盛り上がっていくのだろうと思っています。また今回も流れていたのも、広報周知もできていたと思うので町民の方々も理解していただいているものと思っています。あれだけの映像と実況があれば、盛り上がるだろうと私も感じていました。ありがとうございます。他ございませんか。

山下委員 はい。アメリカの大リーグの大谷選手から、小学校に夢と希望を与えるグローブが届いているかと思いますが、お披露目や活用とかは、各学校はどのようにされたのかお聞きしたいと思います。

森田教育長

まず、波佐見町は県内でも一番早いグループなのかなと思いますが、冬休み25日に届きました。やっぱり最初は子供たちに披露したいと、1月9日の始業式の時に紹介しました。その後については、校長室や玄関に展示をしてとか、教室をずっと回すとか、それが終わってからキャッチボールをするとか、そこら辺りについては、各学校によって取り組みが様々で、クラス単位で回しているところもあれば、今言ったように展示をして触らせるところもあるし、もう実際使わせてキャッチボールということを考えています。社会体育で野球をしている子供たちに使わせるとか、そういったことは特別考えていません。それと小さくて、どちらかというと低学年用になっているので、あくまでも子供たちに触れさせたり、見せたり、あるいはクラブ活動や授業の中で使うとか、そこは学校に任せてあります。今学校だよりでも周知はしています。

朝長教育次長

次の広報で大谷グローブを掲載します。中央小学校が良い写真を送ってくれましたので、その写真を載せたいと思っています。各学校に聞いたら最初は展示をしてから、教室を回して皆に触らせて、今はだれでも使って良いよということになっているみたいです。ただ実際今使っている子供がいるかっていうことは、まだ聞いていません。

それとかなり軽かったです。箱に3つ入ってきましたが、入っているのかというぐらい軽かったです。

馬場委員

子供たちに使ってもらいたいですね。

朝長教育次長

使っているのではないかと思います。

森田教育長

使わないと何にもならないので、使っているとは思いますが。それと、先ほどの一周駅伝ですが、長崎新聞の佐崎さんが興味があって、ずっと回られていました。一周駅伝は西日本新聞社の後援をいただいているので、長崎新聞にはお知らせもしていなかったのですが、聞きつけてずっと1日見て回られていたようです。それで話をしましたが、感動されていました。こんな駅伝はありません。県内あるいは近隣を見ても、ほぼ町一周、中学生から高齢者まで、そして純粋な地区対抗、それも30チームぐらいの参加があって68回も続いているということは、県内広しといえども一つもありません。全国的にもかなり珍しいと取り組みだと思しますので、大変感動していますと話されていました。県下一周駅伝がもう今年で終わりますので、来年は波佐見一周駅伝の特集を是非組みたいです。だから自分に案内をくださいと言われていました。ただ来年は自分がいるかどうか分かりませんという、ただし書がついていましたけど。彼は自分もランナーということもあると思いますが、この前の林道マラソンに引き続き、波佐見町のイベントに対して特集を組みたいという話をされていました。

馬場委員

行事が多いというのは良いですが、裏方をされる役場の職員さんのこと

を考えると、大変だなという思いもしています。ここら辺りは、私たちも行事の見直しということを本格的に、今回コロナが終わっている状況の中で、考えていかなければいけないのかなと感じています。

私たちは教育委員としてやっていますが、特に社会教育の方が毎週のようにいろんなイベントがあっているので、参加するだけではなく、それを裏方として支えている人たちのことを考えれば、負担が軽くなることも考えていかなければと思いました。先生方の働き方改革と一緒にすよね、職員の方の働き方改革も必要ではないかと感じています。

そういったところを、来週ある学びフェスタの中の社会教育の中で話してみようかと思っています。やはり行事を行っていくことは良いことだけど、淘汰するところは淘汰していくべきところに来ているのではないかと、来場者の皆さんにも呼び掛けてみようかなと思っています。そうしていかないと、しわ寄せは誰かに行くわけで、そうやってまた人が減るとなるとますます大変になるなと思っています。

森田教育長

ありがとうございます。波佐見町は、地区、団体のイベントが本当に毎週のように、あり、どうしても事務局として役場職員の参加が求められますので、かなりの負担感があると思っています。どこかで淘汰が必要な時期に来ているのだろーと思っています。コロナが終わって、さあもう1回コロナ以前に戻りたい、あるいはコロナ以上にいうところで、担当者の思いもあるとは思いますが、冷静な判断なり対応というのが求められているのではないかと思います。良い意味のチャンスかなというところもあると思います。

これも先ほど佐崎さんの話ですが、もう彼が9月から以降、ほぼ毎週波佐見に来ていますと言っていました。それだけ波佐見は活気がありますが、気づいたことがあります。イベントごとの参加者が少なく、減っていますと言われました。似たようなイベントを何回もされているので、10人10人10人のイベントをそれぞれに開催するより、一度に30人集まった方が盛り上がるし、そちらが良いのではないのかと思っています。そういう見直しを波佐見町はされたら良いのではないかと、いろんなイベントを回って私はそう思っていますが、と話されていました。そうした方が、負担は一回で済むわけですから、そういう見直しは必要じゃないかなと、新聞記者として気づきがありましたと、話されていました。そこが本町の課題として今思っているところですが、ただそれが林道マラソンなのかというところがあって、林道マラソンは本町らしさがあると思っているので、なぜ林道マラソンから見直しを始めるといったところが、難しいなと思っています。スクラップアンドビルドの部分は、これからとても大事なので、スクラップをする勇気といいますか、踏み込みと言うのはとても大事だと思っているので、どこかでやっていかなければいけないのかなと思います。大きな課題でもあります。もしかしたら、この林道が切られることで一つの刺激になるところがあるかも知れませんが、私たちとしては、ちょっと林道にこだわりたいところは正直あります。

馬場委員

各団体にも、もう一度自分たちが年間行っている行事を見直してもらおうという意味で投げかけ、これは減らしても良い、これは絶対残すという区別をしてもらった方が良くかもしれません。ただ、ほぼ主催が教育委員会なので団体からはいろいろ言えないところもあると思いますが、しかし、今のままで良いのかなというところはあるとは思いますが。

森田教育長

社会教育団体とか各種団体の、総会とか理事会の、年度末・年度初めの時、その旨を伝えていかなければと思います。全体の中で言うておく必要があると思いますので、各種会合の中で、見直しと言いますか、淘汰というわけではなく良いものは残しましょう、だけどこれはというものについては思い切って止めていきましょうというところの考えはとても大事だと思います。

はい、他ございませんか。

富木委員

11月27日に開催された中学生議会が、いま波佐見テレビで放映されていますが、郷土を知ることによる提案ということだったかなと思います。中学生にしましても、まとめをしっかりと、問題を提起しながら発表されていました。柔軟な考え方を持って、大人の目線で分からないようなところを、なるほどというようなところもありました。テレビを見ていて、しっかりした中学生だなという印象を受けました。

本当、知ることによって自分の住んでいるところを、好きになるということもあるかと思います。そういったことで、今中尾の陶器、それから鬼木の棚田ということで、文化的景観の話も進んでいて、昨日鬼木についても勉強会がありました。私の小さい時、佐世保に行って帰ってくるバスに、鬼木行と書いてあるバスがありました。そのバスは馬場さんもお存じだと思いますが、恥ずかしいかったですね。バスに鬼木と書いてあり、鬼木ってどこだろうかと思われることが。しかし、今は棚田が認知され、波佐見と言えば鬼木の棚田ねと知られるようになって愛着が湧いてきて、昨日も話を聞きながら、鬼木の名前の由来など、そういったことを聞きながら、また勉強になりました。

その中で、鬼木に住み始めた人とかいう話の中で、墓碑の話が出てきました。そういった歴史があるものを保全するというような意味で、史跡への指定の方法とか、指定した時の制限とか、あるいは保全するための費用など、後で教えていただきたいなど、昨日質問をしております。

朝長教育次長

昨日の勉強会でもそういった質問をいただきました。今回鬼木で1番古い室町時代の石碑の説明があって、町の史跡に出来ないのかという質問がありましたが、その石碑に文字や年号が書いていないので、ちょっと難しいと盛山学芸員は言っていました。

こういった史跡を指定することが、地元を守っていく機運につながって、頑張っていこうという地元の自覚が生まれてくることにつながってい

くのだろうと思います。私も、いま富木さんの話を聞いていて、鬼木が恥ずかしかったという話をされましたが、とにかく鬼木は全国棚田100選の指定を受けられた平成12年1月だったと思いますが、あれから鬼木は変わられたと思います。よく町長が言われていましたが、指定を受ける前は、棚田の管理は平地の田んぼに比べ管理が大変で、なんで鬼木に生まれたんだろうと話をされていました。しかし、棚田の指定を受けてから、棚田まつりを始められて、あれだけ人が来るようになって、そこから意識がコロッと変わられ、棚田を守っていかないという意識になりました。そういった指定を受けるということは、地元にはものすごく良い刺激になるところはあると思っています。それが私的には、波佐見町全体に波及しているなと思っています。鬼木があれだけ人を集めることができるので、うちの地域でも何かできないかなとされているのではないかなと思っています。中尾はやきものがあるので別格という思いもあられると思いますが、鬼木でできて、うちの地域でもという機運は町内全体に広がっているのではないかなと思っています。

馬場委員

桜陶祭も最初は完全に自分たちの力だけ、補助金なしで始めました。その影響が鬼木の棚田にも移って、次に金屋のエビネにも移っていったのではないかなと思っています。

朝長教育次長

この動きを子供たちの次にしっかりとつなげていって、私は「波佐見町鬼木郷出身です」と堂々と言えるようにしていかなければと思っています。

馬場委員

良いですね、そういうふうにして知られてきたから。だから地元の勉強会をやることは本当に良いことだと思います。知ることによって、そういう意見も出てくるわけです。中尾はこの前勉強会をして、中尾の歴史はたかが400年です。陶石が発見されてから中尾という町ができたので、それまでは井石の上の方に住んでいたということでした。当然鬼木はさらに古いです。

そういったことを聞くということは非常に素晴らしいし、郷土を思うという気持ちは本当に大切だと思いますから、早くこういった勉強会を波佐見全地区にやってもらえればと思います。本当に素晴らしいことになると思います。

森田教育長

中野、盛山学芸員という全国レベルの専門家がいるわけですので、彼たちを上手に活用していきたいと思っています。地区の成り立ちの部分の勉強会というのは、本当に全地区やっていきたいと思っています。特にやきものに関しては中野学芸員がいます。2年前の金屋神社での町石の発見とか、あるいは聖徳太子の像とか、波佐見にある歴史的な部分や、大石先生のような専門家の方々と連携をしながら、波佐見町を再発見する。そのことを子供たちに知らせることによって、今おっしゃったように、子供たち

がまず自分たちの地元を知ることによって自慢ができる、あるいは誇れるという意識させることはとても大事なことで、ふるさと教育の原点だと思っています。ふるさとキャリア教育という中で、いま小学校も中学校もその取組をやっていますので、もうちょっと深めていきたいなと思っています。これが一つの波佐見町の波佐見学の一つのベースになれば良いなということはしています。いま面白い取組を4校ともやっていると思っています。

町としても、文化的景観の認定を受けて、これを一つの波佐見町らしい観光発信の一つのツールというか方法として、ここから広がっていけば良いのかなと思っています。都会的なものではなく波佐見らしい、この文化的景観と西の原の再開発、あるいは自然を生かしたキャンプとか、波佐見の魅力発信はまたある意味、コロナが終わってから、新しい方向性が出てきているのではないかとと思っています。そういう点での深まりが出来たら、もっと素敵な町になっていくだろうと思っています。

はい、他ございませんか。なければ、一応11時半過ぎましたので次回の開催を決めたいと思います。

【日程調整】

では、次回は2月20日火曜日10時から、場所についてはまた後でお知らせをいたします。一つの議題に人事の承認ということがありますので、よろしく願いいたします。それでは、以上をもちまして、1月の定例教育委員会を終わります。お疲れさまでした。

※次回定例会予定 令和6年2月20日（火）10時00分から
波佐見町役場新庁舎

令和6年1月24日教育委員会定例会会議録署名	
署名 委員	馬 場 清 治
	山 下 祐 子